

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 22 年度(2010 年度)第 2 四半期)

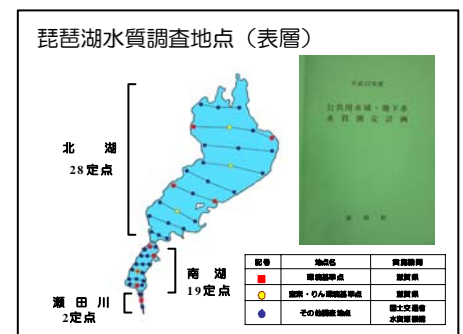
当センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定により作成した公共用水域水質測定計画等に基づき琵琶湖および瀬田川で、採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 22 年度第 2 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川の水質は、年間を通した解析により評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央(通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



◎調査結果について

琵琶湖北湖の代表点として 17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 22 年度第 2 四半期までの水質概況はつぎのとおりです。

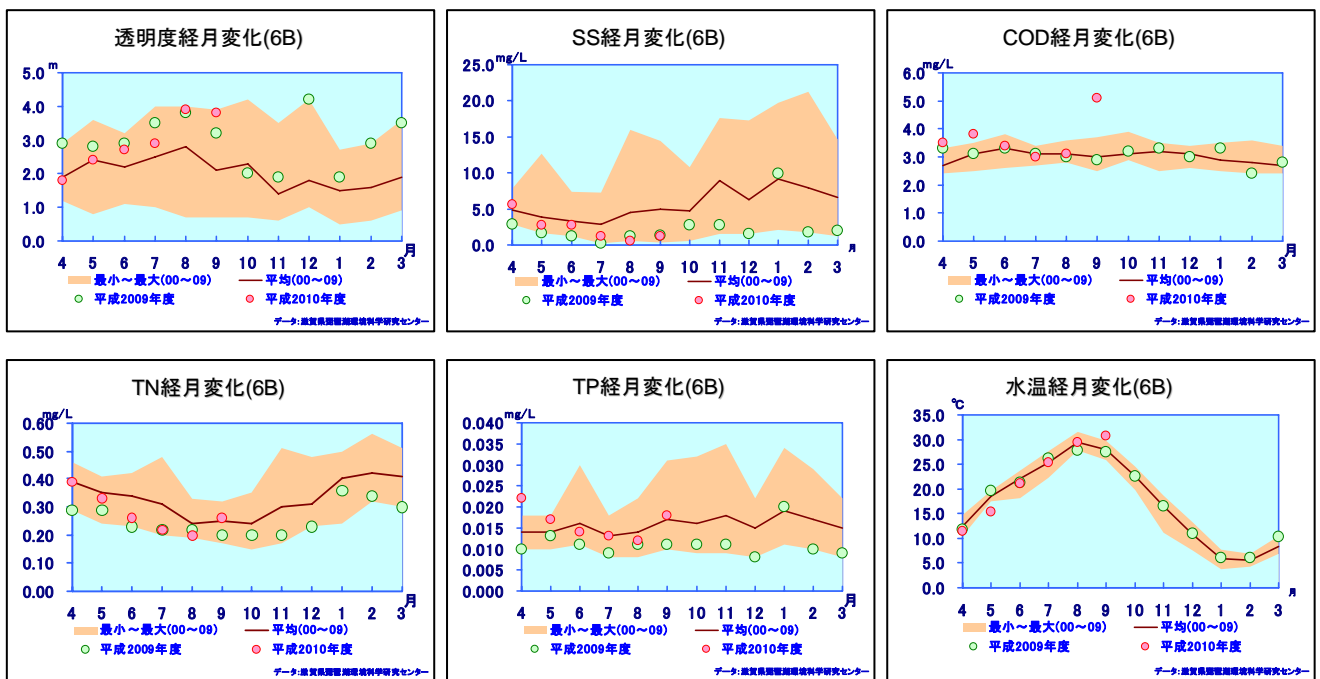
○ 唐崎沖中央調査結果

透明度については、7 月から 9 月は過年度(過去 10 年間)平均値より高い値で、特に 8、9 月は過年度最大値程度となりました。透明度に影響を与える浮遊物質(SS)の推移を見ると、7 月から 9 月には SS が過年度最小値程度の低い値でした。

有機物指標である化学的酸素要求量(COD)については、7、8 月は過年度平均値並の値でした。9 月は過年度最大値より高い値で、これは植物プランクトンのオシロトリア・カワムラエの増殖によるものと考えられます。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、7、8 月は過年度最小値程度で低く推移しましたが、9 月は過年度平均値並でした。全りん(TP)は、7 月から 9 月は過年度平均値並の値で推移しました。

水温は 7、8 月は過年度平均値並でしたが 9 月は 30.8℃と 9 月の過年度最大値を超える高い値となりました。



○今津沖中央調査結果

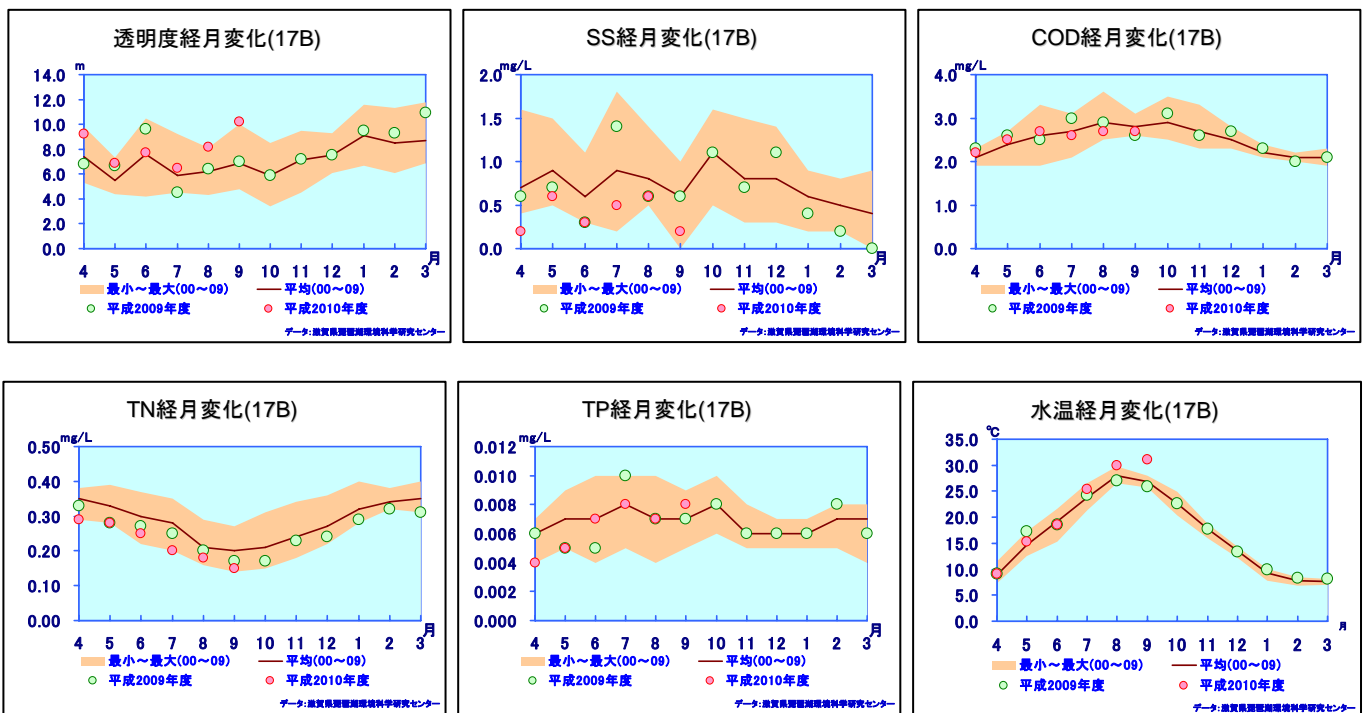
透明度については、気象条件等の影響を受けやすいため昨年度の経月変動と異なった動きを示していますが、7月から9月は過年度平均値より高い値で、特に8、9月は過年度最大値程度でした。SSの推移と比較すると、SSは7月から9月は過年度平均値と過年度最小値の間で推移しました。

CODについては、7月から9月は過年度平均値並でした。

全窒素は、7月から9月は過年度最小値程度の低めに推移しました。

また全りんは、7、8月は過年度平均値並の値でしたが、9月は過年度平均値より少し高い値でした。

水温は、7、8月は過年度最大値程度で推移し、9月には31.1℃と、毎月の調査となった1979年以後のこの地点での最高水温となりました。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター

環境監視部門 水土壤圏担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: dc31400@pref.shiga.lg.jp